

平成28年度上半期の電力需給実績について

1. 電力需要について（表 - 1 参照）

平成28年度上半期の販売電力量は、353億1,600万kWh、対前年比98.5%の実績となり、前年に比べ検針期間が長かったことや、夏場後半以降の気温が高く推移したことによる冷房需要の増加があるものの、契約電力の減少などから、前年実績を下回りました。

用途別の実績については、以下のとおりです。

電灯

電灯は、前年に比べ検針期間が長かったことや、夏場後半以降の気温が高く推移したことによる冷房需要の増加などから、対前年比101.0%と前年実績を上回りました。

電力

電力は、夏場後半以降の気温が高く推移したことによる冷房需要の増加があるものの、契約電力の減少などから、対前年比97.5%と前年実績を下回りました。

（表 - 1：販売電力量）

（単位：百万kWh、%）

区 分	当 期 実 績 (A)	前 年 実 績 (B)	前 年 比 (A / B)
電 灯	10,379	10,271	101.0
電 力	24,938	25,583	97.5
合 計	35,316	35,855	98.5

個々の数値の合計と合計欄の数値は、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

2. 供給力について（表 - 2 参照）

平成28年度上半期の発受電電力量の合計は、381億5,000万kWh、対前年比98.4%の実績となり、前年実績を下回りました。

（自社水力）

出水率79.6%の湯水となり、前年出水率を16.0%下回ったことなどから、発電量は前年を6億300万kWh下回る36億9,600万kWhとなりました。

（自社火力）

運転状況の違いなどから、発電量は前年を17億4,200万kWh上回る268億4,000万kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を500万kWh上回る、4億5,600万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では、前年を8億6,100万kWh下回る111億1,300万kWhとなりました。

(表 - 2 : 発電電力量)

(単位 : 百万 kWh、%)

区 分		当 期 実 績 (A)	前 年 実 績 (B)	前 年 差 (A-B)	前 年 比 (A/B)
自 力	水				
	自流式	3,391	3,996	-605	84.9
	貯・揚水式	305	303	2	100.9
	計	3,696	4,299	-603	86.0
社	火 力	26,840	25,098	1,742	106.9
	原 子 力	0	0	0	-
	新エネルギー 等	456	451	5	100.9
	合 計	30,992	29,848	1,144	103.8
他 社 受 電		11,113	11,974	-861	92.8
融 通		-3,923	-2,999	-924	130.8
揚水用動力		-32	-47	15	68.0
発電電合計		38,150	38,776	-626	98.4
出 水 率		79.6	95.6	-16.0	-

新電力に対するインバランスなど未確定値を含みます。

以上